

FUKUUCHI

Public Relations

No.184
April

広報ふくち

2021
4

夢と希望を彩り走る子どもたちの一筆一筆。

SUPER HAPPY

TRAIN PROJECT



スーパーハッピートレインプロジェクト

世界の地域の人々を巻き込みながら壁面を生み出している画家・ミヤザキケンスケさんと福智町の小学生とが一筆一筆を積み重ね、「最高に幸せな列車」を描いて創った一大プロジェクトの「奇跡の轍」に迫ります——



平成筑豊鉄道株式会社の本社がある「金田駅」の検修庫に設置された真っ白な電車のキャンパスに、思い思いの彩りを重ねていくプロジェクト2日目の参加者たち。



夢と希望を子どもたちの1筆1筆に込めて

中止余儀なくされたアートプロジェクト

世界中を飛び回り、地域の人々を巻き込みながら各地に壁画を生み出し続けている画家・ミヤザキケンスケさんと福智町の子どもたちが実現する鉄道車両に絵を描く産学連携のアート企画「スーパーハッピートレインプロジェクト」の参加募集をした

のは昨年2月のことでした。しかし、JAL・平筑・福智町の3者連携企画は、新型コロナウイルスの蔓延で状況が一変。プロジェクトの中止はもちろん、私たちの「日常をはじめ、主役である子どもたちの学校生活をも大きく変えました。

コロナ禍に思い出された夢の企画ついに実現

特に影響を受けた小学6

年生たちは、感染症対策として学校行事が相次ぎ中止・簡素化された1年を過ごし学び舎を卒業していききました。「子どもたちに最高の思い出を作りたい」と昨年実現できなかった「スーパーハッピートレインプロジェクト」を再企画。感染症対策を徹底した取り組みにより、1年の時を越え、3月20日から2日間、念願のプロジェクトがついに実現されました。



特集

スーパー

ハッピー

SUPER HAPPY TRAIN PROJECT

「Super Happy Train Project」が実現するまで



2020年1月下旬

「Super Happy Train Project」夢の企画がスタートの力による町の魅力発信を目的にJALと平筑・福智町で企画



↑ミヤザキさんが、2月10日に福智町を訪問。細かく車両を確認し、実車のイメージを固めていました。

2020年3月中旬

新型コロナウイルスの流行で緊急事態宣言が発出され中止2月下旬から参加者募集を始め、25人の児童たちが応募。新型コロナウイルスの緊急事態宣言発出により、学校も休校となってプロジェクトの中止が決定。

2020年4月下旬

「OVER THE WALL」福智町の塗り絵を公開ミヤザキさんは「子どもたちのうち時間を少しでも明るくしたい」と自身の公式HPで福智町が題材の塗り絵を公開。ZOOMを活用した合同塗り絵会も開かれました。

2021年2月15・16日

地元小学校の6年生と福岡空港の壁画を制作



2021年3月20日

「Super Happy Train Project」念願の実施へ

緊急事態宣言が解除される好機を待ちながら1月から1年越しの企画が再始動。3月中旬には、夢のキャンパスとなる車両の下塗りも完了。



↑「オーバー」列車のメンテナンスも務める株・九州機装が準備作業を担当。



世界で活躍する画家・ミヤザキケンスケさんと福智町の小学生とが一筆一筆を積み重ねて「最高に幸せな列車」を描き創る夢の一大プロジェクトが1年の時を越えてついに実現。今の特集では、その奇跡の軌跡を追います——

WORKSHOP

ミヤザキさんが考案した

「オンリーワンゲーム」で見つけた自分の独自性

世界中で活躍する画家・ミヤザキケンスケさんが作ったオリジナルゲームでペイント前のワークショップが行われました。このゲームを通してミヤザキさんが伝えた本当のアートの価値や子どもたちそれぞれに大切にしてほしいこととは何だったのでしょうか。

夢のアートプロジェクト 1年越しに実現

たくさんの人の想いが結実し、1年越しに実現した「スーパーハッピートレインプロジェクト」。当初、小学6年生だけを対象とした1日だけの企画でしたが、去年応募してくれた子どもたちにも参加してほしい」と日程を追加。6年生31人は20日、去年参加できなかった17人は21日に参加することが決まりました。そして迎えたプロジェクト本番の日。両日ともあいにくの悪天候でしたが、子どもたちの家族や呼びかけが集まったボランティアアスタツフなども合わせ総勢約140人が集合。巨大な電車のキャンバスを目前に、参加者た

子どもも大人も大白熱「オンリーワンゲーム」

実際に車両にペイントする前のワークショップとして、ミヤザキさんが子どもたちと一緒に「オンリーワンゲーム」を実施。出題されたお題に対して人と違うものを想像しながら絵で表現するというゲームです。例えば「春」といえば「お題に対して桜」や「菜の花」など、想像すれば多種多様に存在するお題への回答。ミヤザキさんからの出題に対して、いかに「なるほど!」と思えるものを描けるのか。子どもたちは頭をひねりながら、スケッチ

「違うからこそ面白い」それぞれの個性大切に

絵を発表する場面では、「同じものを私も描いてしまった」などの声や「それもあつたね」という拍手が飛び交い、会場内は和やかな雰囲気になりました。

Every one's different, every one's special.

ミヤザキさんは、このワークショップは「アートとは、誰かのマネをして上手に書いたりすることではありません。みんなが違うことを描くからこそアート。みんな違うからこそ面白いんです」と子どもたちへ個性を尊重することの大切さを伝えました。ミヤザキさんの思いを「オンリーワンゲーム」を通じて体感した子どもたち。最後のお題としてミヤザキさんから出された「みなさんの住む福智町といえば」という問いに対して、子どもたちはこれまでの思い出や体験を振り返りながらそれぞれが思う故郷を描き出していました。

●ミヤザキさんが子どもたちの描いた「福智町」を「スーパーハッピートレイン」に描き出すまで



ふくち☆
リッチジェラート



上野焼



虎尾桜



ふくちのち



町の小学生が描いた「福智町にはこれがあるよ!」

藤田 心結 さん
市場小学校 5年生

思い出いっぱいの赤池駅



家族との思い出がたくさん詰まった「赤池駅」を思い浮かべました。春になると家族と一緒に駅前の広場で桜のお花見をします。さまざまな土地に色んな駅がありますが、赤池駅は私にとって特別な駅です。

永末 あいり さん
弁城小学校 6年生

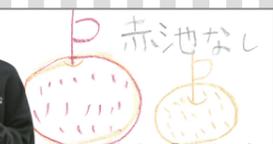
弁城地区の田んぼの景色



弁城小の近くでは、田んぼの景色が広がる場所が多く、学校でも3~6年生の授業で稲を植え、秋には収穫し、白米にして食べます。授業での思い出なども含めて田んぼの景色は福智町の景色だなと感じました。

森 美咲 さん
金田義務教育学校 6年生

故郷の名産果物「赤池梨」



福智町名産の「赤池梨」は毎年、収穫される時期に給食にも出るし、家族と家で食べたりします。とっってもジューシーで、ほのかに甘酸っぱくて大好き。夏時期にしか食べられない私の大好きな故郷の味です。

SuperHappyTrain のキャンバスができるまで

- 古い塗装を剥がす
- パテ付けて調整
- 白い塗料を塗布
- 車体表面を目粗し



公私ともに思い出に残る夢のある列車に

実働する車両の仕事を子どもたちと一緒にするのは初めての経験でしたし、プロジェクトにも親子で参加し、公私ともに思い出に残る仕事になりました。子どもたちが高校生になったときにこの列車で通学できるよう今後も車両維持のサポートができればと思います。



崎田 昌平 さん
株式会社 九州機装



1 事前にチョークで書かれた枠を外れないように塗っていく。2 「色の三原色」で色の組み合わせを説明。3 ペンキを受け取り大興奮の子どもたち。4 貴重な体験に顔がほころぶ。5 ボランティアで参加した大学生と女子トークに花を咲かせながら作業。6・7 久々のイベントで親子の絆を深める。8 ベースと絵の境は慎重にペイント。9 参加者のスーパーハッピーな雰囲気を感じ取り、隣の周囲の参加者へ歌と踊りを披露。10 失敗を恐れず大胆に塗っていく子どもたち。11・12 子どもたちのペイント後は関係者とボランティアスタッフでペイント。13 最終仕上げはミヤザキさんが担当。



参加した子どもたちに聞いた 「Super Happy Train Project を終えて」

船原 恵麻 さん
伊方小学校 4年生

見た人に元気を与える列車に
昨年行われる予定のこのプロジェクトに参加を希望していましたが、コロナの影響で中止されとても残念でした。今年実現されたイベントに参加でき、本当にうれしかったし、みんなが協力して作った列車が、見た人に元気を与えたり、気持ちを明るくするような姿になってほしいです。

田村 裡音 さん
弁城小学校 6年生

思い出が形になるワクワク
卒業記念として参加したこのプロジェクトで友達と一緒に電車に色を塗るといふ小学校最後の思い出ができてうれしく思います。また、友達との最高の思い出が本当に動く列車になって福智町を走ると思うとワクワクします。まだ、列車の全体を見ていないので完成が楽しみです。

池田 翔音 さん
金田義務教育学校 6年生

友達との絆深めたプロジェクト
コロナの影響で楽しみにしていた学校行事がほとんどなくなり思い出を残す機会が少なかったけど、このイベントで友達との絆を深める最高の思い出が作れたので参加してよかったと思います。コロナが早く落ち着いて、こんな楽しいイベントがたくさんできるようにしてほしいです。



目の前に広がる電車のキャンパスに
いよいよ参加者約140人が筆を入れていきます。
実働する電車に自分が色を塗るといふ、一生に一度
あるかないかの特別な体験の瞬間を振り返ります――。

ペイント
PAINT

1筆ずつ、それぞれの願いが重なるとき

「一人ひとりの色彩響き合う
「Super Happy Train」が誕生

おおよそ30分のワークショップを終え、いよいよ子どもたちお待ちかねのペイント作業が始まりました。安全対策のヘルメットと塗料の付着を防ぐレインコートを装着。今から電車をペイントしていくという高揚感で子どもたちは胸を膨らませていました。

塗り方の要点をミヤザキさんから学び、ペイント作業がスタート。子どもたちは、それぞれが好きな色の塗料を選び、ミヤザキさんが事前に書いた下絵の花や虹に彩りを加えていきました。すると、先ほどまでのにぎわいから一変。参加者たちは、動く列車に色を塗る特別な体験に心を弾ませながらも、地元にも夢と希望を届ける列車を創り上げるといふ使命感をもちながら「はみ出ないように、色のむらがないように」と、慎重に塗り進めていきました。

子どもたちとの作業は、プロジェクト初日から2日目の午前まで実施され、ミヤザキさんは「予想を上回るスピードと丁寧さでした」と絶賛。さらにワークショップで参加者が考えた福智町の原風景がミヤザキさんの手によって加えられ、世界に一つだけの「最高にハッピーな電車」が完成します。

SUPER HAPPY TRAIN PROJECT

河合 賢一 さん
平成筑豊鉄道株式会社 代表取締役社長



託された夢と希望を沿線地域へ届けたい

昨年の企画中止後、平筑は乗客の減少等で経営難が続きました。希望が見え始めた今、このプロジェクトに私たちがパワーをもらえた気がします。夢と希望を地域に届けるため、皆さんから託された「スーパーハッピー号」で元気に沿線を駆け抜けようと思います。

高津 勝平 さん
福智町商工会青年部 部長



子どもたちの元気は福智町の元気の源

コロナ禍で辛い思いをする子どもたちに「何かできることがないか」と考えていた時、この企画の支援を依頼され、すぐに参加を希望しました。当日の楽しそうな子どもたちの姿を見て自然と大人も笑顔になっていました。今後も町の宝を支える取組を行っていききたいと思います。

産学官連携により、実現された「スーパーハッピートレインプロジェクト」。子どもたちとともに「スーパーハッピー号」を描き創り上げた4人を取材しました。

立入 真秀 さん
日本航空 九州支社 販売部地域活性化推進グループ



熱意で生まれた魅力ある新コンテンツ

今年3月から福智町を担当することになり、前任者に引き継いでこの企画に携わりました。多くの熱意がこもった新たな取組で、魅力あるコンテンツが完成したと感じています。今後も福智町や関係機関との連携を深め、今までにない取組を行っていききたいと思います。

堀川 純規 さん
福智町立金田義務教育学校 教諭



コロナ禍を成長する好機と受け止めて

新型コロナウイルス感染を避けるため、学校行事をしたくてもできない日が続いたこの1年。何もない中で、「できることは積極的に取り組む」という主体性が生まれた気がします。このプロジェクトでも、楽しみつつ真面目に取り組む様子を見て、子どもたちの成長を感じました。

「スーパーハッピー号」今月17日から出発進行

完成お披露目式の開催が決定！

子どもたちの手で鮮やかに彩りをまとった「スーパーハッピートレイン」。現在着々と運行開始に向けた準備が進められており、間もなく「ハッピートレイン号」が完成の日を迎えます。運行開始に先がけ「完成お披露目式」の開催が決定。「最高にハッピーな列車」が運行を開始する瞬間をミヤザキケンスケさんと子どもたちと一緒に祝福しませんか。

完成お披露目式 ▶ **4月17日** 土

場所 ▶ 平成筑豊鉄道 金田駅内(車庫)

時間 ▶ 12時30分～(予定)

記念運行 ▶ 金田発 13:26 / 直方着 13:40
直方発 14:05 / 金田着 14:19

※ 「ことごと列車」も13:26には金田駅1番ホームに停車中
※ 記念運行では、プロジェクトの関係者が乗車するため、通常のご利用ができません。



※この画像はイメージです。

プロジェクトで培った 人生の壁を超える力

「日本だけでなく、全世界が共通に経験している新型コロナウイルス」という壁。特に人生経験の少ない子どもたちにとっては、本当に特殊な時間を過ごしているんだろうと感じています」と感染症の影響で異質な生活を送る子どもたちの現状を世界的な視野

で捉えるミヤザキさん。コロナ禍に多くの関係者の尽力で実現したプロジェクトでの子どもたちの様子を「この機会に込められた想いを子どもたちがしっかりと受け止め、自分たちの一筆一筆に託された思いを形にしよう」と評価しました。

「今回参加してくれた子どもたちは今後も、人生の壁を

経験する時が来ると思いますが、スーパーハッピー号はいつかはなくなるけど、コロナ禍の町へ夢と希望を与えた経験はなくなりません」と困難に直面したとき、このプロジェクトが子どもたちの未来の糧になると信じるミヤザキさん。福智町の子どもたちの大きな未来のキャンバスに目を細めながら鮮やかな彩りを加えていました。

アートが持つ可能性 気付いた大きな転機

「アートが持つ力って何なんだろうって、絵を描き始めた時から考えていました」と遠い日を遡るように語り始めたミヤザキさん。高校からアートの世界に入り、展覧会などで自分の描いた作品が一部の人の目に鑑賞されないことに違和感を覚えていたといいます。そんなミヤザキさんに大きな転機が訪れます。今から十年前に日本を悲しみの渦に巻き込んだ「東日本大震災」です。

ミヤザキさんは「何か自分ができることはないか」と災害発生後、すぐに被災地を訪問。営業を再開しようとする理髪店の仮設店舗を外装ペイントするボランティアを始めます。次第に被災地の方々が「未来への希望を感じる」と、ミヤザキさんの取組を支援。気づくと、ボランティアの場が「ミニニティ」や情報発信の場になっていくことを通し「アートにしかできない大きな可能性に気づいた」と振り返ります。



「ミヤザキさんがボランティアとして携わった被災地の中心に店を構える「ニュー清水」。当時を自分が絵を描く理由を見つけた瞬間でした。公式ブログ「OVER THE WALL」な世界」で公開中。

新型コロナという人生の壁に
直面する子どもたちの将来の
大きな糧になると信じてます

OVER THE WALL

あらゆる壁を超える。その先には

ミヤザキさんが被災地や世界各地での経験を通してコロナ禍を生きる福智町の子どもたちへ伝えたいことは何か「スーパーハッピートレインプロジェクト」に込められた想いに迫ります。

1年1か国、世界中で地域とともに壁画を残す「OVER THE WALL」



ハイチ(2019.6～)
国境なき医師団と協力し、同団体の病院に壁画を描写。患者自身も参加することで、精神的ケアにも貢献。



エクアドル(2018.9～)
首都の女性刑務所に収監される女性受刑者とその施設で母親と一緒に暮らす子どもたちと共同で刑務所内の壁画にペイント。



ウクライナ(2017.7～)
東部に位置するマリウポリ市で、いまだに騒乱の弾痕が残る学校に平和のメッセージを込めた壁画を残した。



東ティモール(2016.8～)
インドネシアから独立した新国の首都ディリの国立病院の壁に、孤児院や小学校の子どもと明るい未来を表現した。



ケニア(2015.1～)
ナイロビの小学校の新校舎に子どもたちとともに壁画を描き、日本の小学校とつながるプログラムも実施。